

## 山梨県葬祭事業協同組合

## 遺品が語る真実

## 遺品からみる故人の想い

ACTIVE KUMIAI



キーパーズ(有) 代表取締役 吉田太一氏

山梨県葬祭事業協同組合(坂孝夫理事長)は1月21日、ホテル古柏園にて組合員を対象に「遺品が語る真実」をテーマとした研修会を開催した。講師は、現在メディア等でも注目を集めている遺品整理専門店「キーパーズ」の代表取締役吉田太一氏。吉田氏は2002年、天国へのお引越しをキャッチフレーズにした日本初の遺品整理専門店「キーパーズ」を設立。以来、1万件近くの遺品整理に関わっている。

「遺品整理業」とは、亡くなられた方のご遺品を遺族に代わって(あるいは、ご遺族と一緒に)整理し、ある物は処分し、ある物は遺族に形見としてお届けし、またある物は、僧侶呼んで供養(遺品供養)して天国の故人の元へお送りするのが主な仕事である。これを吉田氏は「天国へのお引越し」という。「遺品は「ミ」ではない」「これは、キーパーズの企業マインドである。お気に入りのバッグ、特別な日の記念品等、遺品とは故人が長年連れ添った大親友となるものである。

その人の生き様を代弁する遺品もある。例えば、長く独居生活をしてきた人が亡くなった場合、故人の日常生活を知っていた人は少なく、その部屋の中のことなど誰一人知らない場合が多い。しかし、遺品はそのすべてを知っていたりする。

最後に、吉田氏は「遺品」についてこう締めくくった。「在りし日の故人のすべてを語る物。自分や家のルーツがあり、この時代を生きた証があり、これから生きる知恵やヒントが込められていたり…。この繋がりにより私たち人間は成長してこられたのではないかと」。



遺品の合同供養の様子

遺品と故人、接するものが違えども、その故人の「想い」は変わらない。組合員は、熱心に吉田氏の言葉に耳を傾けていた。